

ふくしまスタディツアー2023～原子力災害後を共に生きる～

募集要項

【主催】

大阪大学大学院人間科学研究科附属未来共創センター（未来共生プログラム）

大阪大学社会ソリューションイニシアティブ(SSI)

企画趣旨

関西では福島第一原子力発電所の事故の話題を聞くことが少なくなりました。しかし、汚染処理水や中間貯蔵施設など、課題は山積したままです。そして、現在も県外で避難を続ける人が把握されているだけでも約2万人いる一方で、避難指示解除11市町村で実際に居住している人は1万6328人（2023年2月現在）と非常に少ない状況が続いています。原子力災害の被災者は生活再建の見通しが立たず、復興にはまだまだ長い時間を要するといえますが、原子力災害の被災地の状況や避難者についてメディアが取り上げる機会は減り、国民の関心は低下しており、原子力災害そのものの風化が懸念されます。このような背景を踏まえ、福島第一原発事故の被災地の「今」を知り、多様な被災者の「今」を聴き、原子力災害後を共に生きる私たちは、いかにあるべきか考えることを目的にスタディツアーを実施します。

1. 日程

事前学習 ①10月13日（金）17:00～20:30

②10月27日（金）18:30～20:00

現地訪問 2023年11月2日（木）～4日（土）（宿泊場所は福島県いわき市、浪江町予定）

★旅費は大学がすべて負担

事後学習会 11月10日（金）18:30～20:00

報告会（公開）12月1日（金）18:30～20:00

2. 内容

【事前学習】

- ① 福島第一原発事故の概要説明、参考図書を紹介、ドキュメンタリー映画「福島は語る」の鑑賞
- ② 福島の復興について（福島県庁の方にお話を伺う@オンライン）

【現地訪問】

1日目

- ・東京電力廃炉資料館見学
- ・双葉町の視察と復興について（双葉町役場の方から）（予定）
- ・原子力災害考証館の見学

2日目

- ・被災者の「今」を聴く①（県外避難経験者）
- ・被災者の「今」を聴く②（富岡町民に町内をご案内いただく）
- ・被災者の「今」を聴く③（双葉町民の方から）

3日目

現在、検討中（浪江町、南相馬市で検討）

【事後学習会・報告会】

報告会では、事前学習、現地訪問、事後学習会を通じて学んだことを5分程度のプレゼンをしてもらいます。

*内容は変更される場合があります。ご了承ください。

3. 募集対象・人数 人間科学研究科院生 5 人程度、全学部生 5 人程度

4. 募集期間 2023 年 7 月 10 日（月）～7 月 28 日（金）

5. 結果通知 2023 年 8 月 7 日（月）

6. 応募条件

原則、全行程（事前学習、事後学習、報告会を含む）に参加できること。

志望動機（400～800 文字程度）を募集期間内に提出すること。

なお、応募にあたって指導教員の許可（署名又は押印）を得ること。

応募多数の場合は選抜し、未来共生プログラム（副専攻を含む）受講者ならびに初回応募者を優先します。

7. 参考資料

過去 3 年間のツアーに関する報告書です。

http://respect.hus.osaka-u.ac.jp/RESPECT_files/reports/fukushima_study_tour.pdf

【問い合わせ・応募用紙提出先】

未来共創センター（人間科学研究科 東館 105）：伊藤莉央（r-ito.hus@osaka-u.ac.jp）

応募用紙はメール又は未来共創センターに提出してください。